

ビオトープの花 オモダカ

オモダカをご存知ですか。青々とした水田の中で、真っ白な花が目立つのがオモダカです。オモダカの特徴は葉の形です。葉の基部は二つに裂けていて、矢じり形と称されています。この葉は長い柄を持っているため水面から高く出て、まるで人の顔が高く浮き出ているように見えるため「面高（おもだか）」と呼ばれるようになったのだそうです。美しい花にもかかわらず、大型の水田雑草であるため稲作にとっては厄介な駆除対象となってきました。

先日テレビで、一部のオモダカが「スーパー雑草」になってしまったとの報道がありました。除草剤に対し耐性をもつものが現われたそうです。ビオトープではそうした薬剤は使っていませんので、可憐な雑草のままです。稲刈りが終わった田んぼで、清楚で可愛いオモダカの花を見てください。（佐々木）



ビオトープとわたし 藤平三郎

以前から会員でありました上村さんからビオトープの話が度々出て、楽しく活動している様子でお誘いもあり、平成18年春に入会しました。そもそも、ビオトープとは、不耕起栽培とは、の聞き慣れぬ言葉を調べ上げ、珍しい言葉にもすんなり慣れて、既に3年半過ぎました。

その年の脱穀時で驚いた事は、少年時代に家族で汗流した「足踏み脱穀機」や、「唐箕」を40数年振りに目にしたことでした。千葉の半農半魚の生まれで、両親にくつつきながら手伝いをして来た私には、あの昭和30年代頃を懐かしく思い起こさせてくれました。

ビオトープの本来の意味は「野生生物の生息する空間」とのこと。昭和のあの時代までは、ごくごくありふれた田舎の風景でした。時代は大きく変わって、地球規模での環境汚染と温暖化が進んで喫緊の対策が急務となっている現在で、身近にこうした問題をとらえることの出来る場の一つがこのビオトープであると思います。

作業を終えた後、お茶を飲みながらのみなさんとの団欒は楽しい一時です。更に老若男女の多くの人の入会を期待し、微力ながら自然の大切さを呼びかけていきたいと思っています。

編集後記

春山さんが重い病気で、急遽、編集を引き受けることになりました高田です。

よろしくご協力をお願いします。今回は企画も終わっており、原稿、写真もひっくるめて春山さんから引き継いだので、ただ並べるだけ、のはずでした。

実際に並べてみると、いろいろ配置を変更した方がいいと思われるところが出てきたり、脱穀まで入れる予定が日程が合わず、若干入れ替えるところがでたりで、企画通りには行かなかったところがあります。

やってみて気が付いたのは、春山さんが楽しい紙面作りに、心を砕いておられたということです。手抜き派のわたしには、とても及ぶところではありませんが、なんとかできるだけ楽しい紙面にしたいと、努力していきたいと思っています。

今号から、編集のソフトも変更しています。ずばらに作るには適しているマイクロソフトパブリッシャーです。

次号からは年4回の季刊とすることが決まっており、どのように作るか、皆様と考えていきたいと思っています。（高田）

名戸ヶ谷ビオトープだより

第39号

2009年10月1日

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

外来植物の駆除など 合同作業

8月と9月は、主に外来植物の駆除作業を行いました。ミント、アメリカセンダングサ、セイタカアワダチソウなどが駆除の対象です。ミントは春からこまめに摘み取ったため、花をつける株が殆ど見られませんでした。とは言っても、地中に根を残す多年草ですので、来年も引き続き地道な作業が必要と思われます。

8月と9月の合同作業日にはウシガエルの捕獲トラップを仕掛けたがザリガニだけだった



湿地帯の中の外来植物を刈り取る

を試みました。ウシガエルは特定外来生物に指定されている生き物です。あらかじめ捕獲網を設置し、昼前に網を引き上げました。残念ながら捕れたのはアメリカザリガニばかりで、肝心のウシガエルは見られませんでした。捕獲方法を考えなおし再度挑戦したいと思います。

（佐々木）

サビの浮き出ているトタン屋根と壁面(左)

お色直した作業小屋

いつもお世話になっている木村さんの作業小屋の屋根や壁が錆びや色落ちで名戸ヶ谷ビオトープに合わなくなったので、お色直しをしました。

木村さんの了解を得て、屋根はグリーン（小笠原担当）、壁はアイボリー（篠崎会長担当）に塗り替えました。これから

もきれいに使わせてもらいましょう。

（小笠原）

屋根はみどりに、倉庫の壁はアイボリーに



稲刈り 恒例の名戸ヶ谷小の稲刈り、無事終了

9月8日（火）13時半から恒例の名戸ヶ谷小学生による「名戸ヶ谷小の稲刈り」が行われました。心配の台風の影響も降らず、5年生48名が作業方法と注意事項を聞き、決意表明をして、ぬかるんだ田んぼに入り、刈る人、運ぶ人、束ねる人と分担して始まりました。刈った稲束を学校の干し場までリヤカーと一輪車で運び、稲掛けをするのは6年生43名の担当でした。

もち田4枚のうち倒伏のひどい1枚は事前に会員諸氏が刈ってあったので、刈る田は3枚でした。校長先生他7名の先生方と我が会員9名の応援で始まりました。初めは戸惑っていたが、慣れるにつれて調子が上がり、15時には稲刈りは無事終了しました。尚、PTA役員方や環境保全課員の声援を兼ねた視察も励みになりました。

田んぼから出て、手押しポンプを交互に押しながら、泥んこになった足を洗い合い、最後に全員が集合、先生の司会で感想や反省意見を発表して全てが終わりました。本当にお疲れ様でした。（影山）



5年生が田んぼに、6年生は学校まで運搬

参加した子どもたちの感想から

- ☆洋服もくつ下も泥だらけになり、米作りの大変さを知りました。 星 茉那美
- ☆田植えから5ヶ月が経ち、足を田んぼに入れるのは緊張したが良い体験でした。 和賀井 萌木
- ☆刈った稲を運ぶ作業で、田んぼの中の移動は大変でした。 竹内 章紘
- ☆稲刈りをしていて、とても珍しいカエルがいてびっくりしました。 阿波 拓海

すずめさん ごめんね

ネット掛け、ネット取り外し

出穂時期の天候がやや不良で穂の粒数が少ないようですが、今年も8月1日、多くの会員の協力ですずめネットを広げて田んぼ全域をカバーしました。シャツのボタンに引っ掛ける人もいましたが、短時間で完了。すずめが恨めしそうに木の枝で鳴いていました。又、



竹の棒を立てて、ネット掛け

朝夕、ネットが光に反射してきれいなウエーブが見られましたよ。

9月6日、2日後の名戸小稲刈り前にもち水田、12日には、うるち水田の稲刈り前にネットをはずしました。はずし作業にも多くの会員の協力がありスムーズな作業で無事終了。ネットはあちこち穴が開いてしまいましたので、来年は更新を予定しています。（小笠原）



ネットはずし 人手の必要な作業

雨にたたられたりりの稲刈りてんまつ記

結局、何回かに分けての稲刈り

本年のうるち米の稲刈りは、9月12日（土）、13日（日）の2日間を予定して行われた。

12日は今にも降り出しそうな曇天であったが、会員15～6名、名戸小の阿部先生とネイチャークラブの児童1名が参加して、9時から7番たんぼの刈り取りを開始した。しかし、間もなく雨が降り出し激しくなったため、10時30分前に7番を刈り取った段階で終了することとなった。その後、雨具の準備が完全であった3～4名が1番の約3分の2を刈り取った。

13日は晴天となり、会員12～3名と名戸小学校長先生の参加を得て、1番の残り2、3、4、6番を12時過ぎまでかかって刈ったが、5番1枚が残った。

残った5番は、14、15日の2日間で会員有志の参加により終了した。刈り取りに際し聞こえた声



晴天で作業が進んだ二日目

作業しやすい稲掛けパイプ棚造り

刈り取った稲の乾燥用のパイプ棚をホテルゾーン側と北側木道沿いに昨年とほぼ同じ長さで作成。不足の資材を前週に揃え、29日に15人の会員が一時間半で完成させました。昨年の反省をふまえ、倒れないようにしています。（小笠原）



雨で中断した初日の稲刈り

は、今年は「分けつが良くない」、「穀粒が少なく穂が軽い」等であったが、はたして昨年と比べて収穫量はどうなったか。脱穀、検量を待ちたい。（外川）



最後に残った5番田んぼは影山夫妻、佐々木、高田によって完了した



パイプをジョイントでつないで組み立てる